



オミクロン株を始めとする新型コロナウイルス感染症が、鳥取県内、特に西部地区において猛威を振っています。生徒・保護者・地域の皆さんも、不安な日々を過ごしておられることと思います。基本的な感染症対策を徹底することは、各方面でも周知されているところですが、人の感じる不安や、ときには善意からくる言動が、かえって他者を苦しめる結果につながることもあります。この機会に今一度自分自身の言動を振り返ってみましょう。

～コロナ禍のなかで～

報道でもすでに出ていますが、西部の複数の学校現場において、関係者の感染が確認されており、いわゆる「第6波」と目される感染拡大は、未だに収束の兆しが見えません。感染された方や、そのご家族の方は、大変なご不安とご心配のなかで日々を過ごされていることと思います。心からお見舞い申し上げるとともに、一刻も早いご回復をお祈りしております。

そのような状況下で、気になることも出てきました。

各校で生徒や保護者の皆さんへの情報提供や連絡をとるなかで、「感染したのは〇〇部の人って本当ですか?」「△△クラスの××年生って聞いたんですけど…」と、事実とは全く異なる、根拠のない情報や噂が一部で広まっていることが分かったのです。一体どこからそのような情報が出てきたのかは分かりませんが、すでに複数の事例が報告されています。

当然のことではありますが、個人情報保護や人権尊重の観点から、感染した方の情報等は基本的には非公開で、断片的なものとなります。その断片的な情報を、想像と憶測でつなぎ合わせ、根拠もなく思い込みで他者に伝えることは、厳しい言い方になりますが、デマの拡散に他なりません。感染のリスクが高まるなかで、明確な情報を求めたくなる気持ちはもちろん理解出来ますが、デマの拡散は結果として誰かを傷つけますので、絶対にやめましょう。

改めて、みなさんに気をつけて欲しいこと、考えてみて欲しいことをまとめてみます。

- ①不安なのはみな同じ。不安な気持ちを誰かにぶつけるのではなく、「不安だよ」と寄り添う姿勢を。
- ②考え方や、出来ることは人によって様々。「これが正しいのになぜやらないのか」と他者を責めるのではなく、その人や周囲にとって最適な方法や手段を、落ち着いて考えよう。
- ③誰もが感染するリスクを負っている。感染してしまった人を攻撃する人は、自分も感染したときには攻撃されることを受け入れているということ。あなたにとってそれが良いことですか?
- ④個人情報保護の観点から、公表される情報は当然制限される。勝手な憶測や思い込みで、誹謗中傷や、誤った情報の発信者にならないようにする。

新型コロナウイルスとの闘いは、まだしばらく続くかもしれません。様々な場面で、多くの方が必死の努力を続けています。時には誰かを責めたい気持ちになることがあるかもしれません。ですが、あなたが誰かを責めても、コロナが無くなるわけではないのです。不安に負けそうになっても、少し立ち止まって、感情に安易に流された言動は避けたいものです。